

学校訪問等によるヒアリング まとめ

教職員の多忙化解消に向けた協議会のための作業部会

1 対象

(学校への現地調査) 小学校 3 校、中学校 2 校、高等学校 1 校
(関係団体との意見交換) 3 団体

2 概要

<業務に専念できる環境の確保>

- 会議・研修（「調査・報告書作成」の負担は、出張に係る資料の作成と思われる）
 - ・会議や研修による出張等が多い。（削減が必要）
 - ・出張の負担が大：事前の資料作成、移動時間、自習等への対応、事後の処理
- その他
 - ・校内研修の見直し（紀要を作成しない 等）を進める。
 - ・共同実施を行う環境の整備に市町村間の差がある。
 - ・4月の契約等を教育委員会と連携して簡略化に努めている。
 - ・給食費の未納対応は給食センターで行っている。

<部活動の負担軽減>

- 休養日の設定
 - ・設定した休養日の遵守徹底が必要である。（学校間で差がないことが大切）
 - ・合理的・客観的に説明できるとよい。
（休養日設定による効果、安全面からの必要性、国の調査やガイドライン 等）
また、保護者の立場からの視点ももたないと浸透しにくい面がある。
 - ・大会や施設利用、地域行事への参加依頼等から、一律に土日の休養日設定には難しさもある。
- 生徒の人数に対して部数が多い。
 - ・顧問・副顧問の複数掛け持ちによる負担が大きい。（引率業務が多い 等）
 - ・大会参加に合同チームを組まざるを得ない。
 - ・部数の目安などが行政から示されるとよい。
- 専門性のない競技を指導する負担感がある。
 - ・外部指導員の効果は大きい。（練習メニュー・大会の審判等）
- 他組織との関係
 - ・体育連盟等が競技組織の中に組み込まれてしまっていて、中体連等の大会以外の対外試合が増えている。（吹奏楽部の時間拘束も多い）

<長時間労働という働き方の改善>

- 勤務の状況
 - ・退勤時刻は学校間によって差がある。
 - ・出退勤の把握は、管理職の目視によるところが多いが、徐々に、記録を取る試みをしている学校も出てきている。
 - ・部活動終了後に仕事をしてから退勤する職員が多い。朝早めに出勤している状況も見られる。
 - ・事務職員も、年度当初は時間外業務が続いた。
- 出退勤時刻等の把握について
 - ・出退勤時刻の把握は必要であり、全県できちんとして行っているところが多い。
 - ・職員間で、出退勤時刻の把握の目的や必要性への意識に差がある。